

「芸人」オオタスセリさん

唯一無二の弾き語りで魅せる現代の「スセリ姫」。

負け犬街道を突っ走り、妄想を炸裂させた一人コントでじわじわと注目されてきた、オオタスセリさん。近年では、「下手」なギターをかき鳴らし、永六輔さんや立川談志さんといった芸の目利きの人たちにも認められている。一度聴いたら歌詞、メロディー共に耳をつけて離れない代表曲は、『ズバリ、題して『ストーカー』と呼ばれる。こんな歌を作るオオタスセリさんとは、いったいどんな人なのか。

PROFILE

オオタスセリ

神奈川県出身。本名は太田寸世理。身長176cm。足のサイズ26cm。スセリという名前は「古事記」のスセリ姫(スセリヒメ、と読む)に由来する。大学では落語研究会に所属するも、本格的に芝居の道に進むために中退。劇団円研究所に所属後、「ペコちゃん」という漫才コンビを組むが、相方の結婚によりピン芸人となる。一人コントやギターの弾き語りなどの舞台を中心に活動。女優や台本作家、エッセイストとしても評価が高く、益々の飛躍が期待されている。



私はお客様が相方だと思ってるし、
ワールドが主に小劇場ですから、
客席の様子を探って、
向こうから来た感じに反応して
私の次の言葉が出てくる。

今、オオタスセリが来ている

オオタスセリさんの人気は今、じわじわと広がっている。一人コトの舞台ではOLや喪主を務める妻などを演じて笑いを誘う。一方、アコースティックギター1本を抱えて自作の歌を咆哮し、時にささやき、コミカルに歌う。

とくに怪作『ストーカーと呼ばないで』は、通勤電車で見かけた男性に一目惚れした女性の行動がだんだんと暴走していくさまを、女性の視点から歌いあげている。

ストーカーと呼ばないで
あなたを好きにだけ
ストーカーと呼ばないで
あなたをつけただけ

当初は舞台で披露していたが、永六輔さんのラジオ番組で流れたところ思いがけぬ大きな反響を呼び、自ら焼いたCDがあっという間に完売。2006年にはビクターエンタテインメントからメジャーデビューを果たした。

ややハスキーでアニメがかったスセリさんの

声、メロディー、歌詞世界のどれもが絶妙なおかしみを醸し出している。ある種の純愛ともいえる悲哀と笑いを作り上げるそのセンス。これはエッセイ集『デカイ女』にも詰まっている。過去の恋愛話や心のうちといった内面もさることながら、「鯨ベーコンの売り出し方と売れ行きを毎日観察して記録する」などといった、およそ他人には思いつかないような日々のディテールについてもユニークな行動が綴られている。しかも、この本の表紙のスセリさんは、写真(隣ページ)のとおりJR中野駅近辺で巨大化している。もちろんデフォルメだが、その存在感はまさにこんな感じなのだ。

「男子より大きい」思春期

さてその「デカイ女」についてなのだが、日本人の平均身長は現在、成人男子が約172cm、成人女子が約159cmなのだという。そして、われらがオオタスセリさんは176cm。女子の平均値を17cm飛び越え、男子の平均値をも4cm上回っている。

「普通の女の子の服だと、どうしてもツツル

テンで変だったりするので、自分がその服を着たときにどう見えるかには非常に注意を払っていました。背が高い人が近くにやってくるのと“あの人はただデカイだけ。私はちゃんと丈を伸ばして、アイロンかけたりしてるもんね”と思ってました。おしゃれチェックにうるさかった。165cmぐらいだと単に人が歩いているだけ、としか思わないんですが、170cmぐらいになるともうライブ視(笑)が始まります」

スセリさんはその頃からすでに鋭い観察眼を發揮していたのだった。しかし、それはすなわち平均値から大きくはみ出した自分自身をも見つめる目でもある。

「大きくなっていったことによってしっかりしくちゃとか、学級委員やリーダー、班長などで頼られるということはあったかも。人はB型と言われるとB型っぽくなったりするように、大きいことで人格形成に関わることもあったと思います。バスケなどの運動を始めてからは、“背が高いからやってるんでしょ?”と言われるのがすごくイヤだったし、もともと身体的に有利というのもあんまり好きじゃなかったので、『だったら誰よりも俊敏に動いてやる!』と思って、トレーニングは随分しましたね」

女性にとって「大きい」ということは、かくもいろいろな思いをもたらすのである。

「大きいと、良くも悪くも、人から覚えられやすいでしょう？ でも、目立つのもあんまり好きじゃなくて、自分の能力ではない、言ってみれば「体の七光」で目立ってしまうのが私のコンプレックスでした。特に思春期だと、男の子より大きいことのハンディキャップがあります。もう、それだけで恋愛の権利を失っている感じがある。『大きい女の人が好きなんだよね』なんてと言われると、『フン、それで好きになってもらっても困るのよね』というところもあって、余計に範囲を狭めてました。今はだいぶ気にならなくなりましたが、こうしたことって、やっぱり少なからず私の人格形成に関わっていると思います」

場数を踏んでリラックスを手に入れる

それでも、年齢を重ねるごとに猫背気味だった背中もいつしか伸びてきた。

「芝居を始めた頃は無我夢中だったんですが、自分で台本を書いて多少評価を受けるようになってから気にならなくなりましたね。言われればああそうかなと思うぐらいで。身長のことよりも、とにかく10代の頃はなにかも自信がなくて、自分が何者かもわからなかったです」

今、舞台上のスセリさんは、客席の隅から隅まで冷静に把握しているように見える。演技に没頭しているように、声を張り上げているように見えるときでも、どこかしら自分自身にも、そして観客に対してもクールなスセリさん、がするような気がするのだ。

「いやいや、『きょうはこんなお客様がいらっしやるな』ということは、情報として目に飛び込んでくるだけで、観察するほどの余裕はないですよ。ただ、場数をたくさん踏んできたので、以前ほど緊張しなくなりました。私はお客様が相方だと思っているし、フィールドが主に小劇場ですから、客席の様子を探って、向こうから来た感じに反応して私の次の言葉が出てくる。冷静というか、リラックスですかね。リラックスしていないと、客席から返ってくるものをキチンと受け止められないのは確かですね」

ブレイクに向けて疾走中

一人芝居にコント、時にゲストを迎えてのフリーの掛け合いと、舞台上で多彩にトライしてきたオオタスセリさんが、「そうだ、ギター

やってみよう」と思い立ったのは、実はほんの数年前である。

「ギター教室に行ったほうが良い、という人もいましたけれど、本当の一流のプロの人ほど、コード進行のことなんかぜんぜん言いません。『放つといっても上手くなるから、それより詩や歌い方に気をつけたほうが良いよ』って」

もともと、ギターの腕前については「多分、ワンマンライブをやってお金を載っている人間としては、日本一、ギターが下手だと思えます」と断言する。「お客様は私に上手な歌を求めている。というか、そもそも許してくださいというのでしょうか(笑)」。

スセリさんは、公演の案内を自ら送付したり、アンケートを書いてくれた人、一人ひとりにお礼ハガキを出したり、「そういうことが好きで、全く苦になりません」という。とてもまめなのだ。ブログに登場するペコちゃん人形は全てファンの方からのいただききもので、部屋にはたくさんのペコちゃんが飾られているという。スセリさんはお客さんから友達のように愛され、その距離感是非常に親密なものである。普通の人々の普通の暮らしの中からもなにかが掬い取られ、それらがコントや歌に結晶していく。そしてそうなった時、スセリさんが発揮するパワフルな芸の世界は、まったく「普通」ではない特異なものに変貌してしまっている。

ギターはライブの前座や路上など、毎日人前で演奏することで鍛え上げ、「普通はできるようになってから舞台上に立つものですが、私は立ちながら少しずつ上手くならせたいので…」と、このあたりも常識を覆したやり方だ。弾き語りもブログも、そして著書も全て、40代に入ってからの実行し、たった1人のピンの芸人、アーティストとして常に人前に自分を晒すことで

育ってきたスセリさん。もしかして、やっとな時代のほうが追いついた、のかな？

撮影のために外に出てもらうと、曇天の中、ギターを抱えて歌い出した。ポーズをとってもらおうと思ったのだが、すでにスセリさんは歌っている。通りがかりの人が不思議そうに足を止めて、つかの間のライブを注視している。わずか数分間の贅沢なオオタスセリメドレーだ。猫の額ほどの都心の小さな公園で、もちろん取材のためだと承知しながら、そうやってスセリさんのギターと歌に耳を傾けていると、「やっぱり東京って面白いところだな」と、不意に思う。

オオタスセリさんは誰にも似ていない。その曲に、舞台上に笑って、笑って、でも笑うだけでは済まない、人間の持つ哀しみみたいなものが見える気がする。

ワンアンドオンリー、唯一無二のその個性を、ぜひ一度、体験してみてください。

Text by : 藤野未央

ややハスキーなアニメ声で歌う、シュールな歌詞とメロディ。



LIVE

オオタスセリ 1人ワンマン@弁天
5/22 20:00開演 ライブカフェ弁天
オオタスセリ企画☆楽園ライブVol.4
7/7-8 19:30開演 下北沢楽園など
地方公演も実施している。
詳細はブログ私の観察日記4/3参照。
<http://suserin.exblog.jp/d2008-04-03>

WEB

私の観察日記
<http://suserin.exblog.jp/>

BOOK



『デカイ女』
オオタスセリ著
幻冬舎
1365円(税込)

CD



『聴いてはいけない
オオタスセリの世界』
オオタスセリ
2500円(税込)